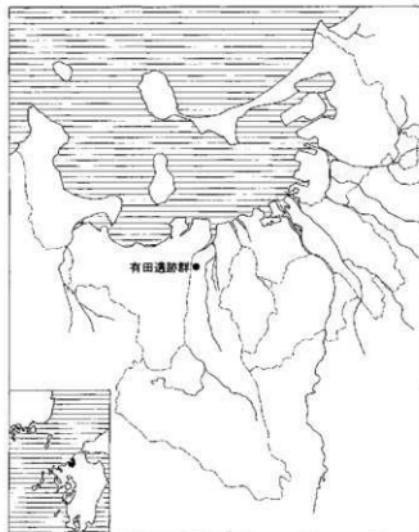


# 有田・小田部 55

—有田遺跡群第18次・第248次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1249集



遺跡番号 調査番号  
ART-18 7913  
ART-248 1305

2015

福岡市教育委員会

# 序

福岡市は玄界灘を介して大陸・半島と一衣帶水の関係にあり、古来より双方の交流が絶え間なく行なわれてきました。福岡市西部に位置する早良区には、有田遺跡群や藤崎遺跡・西新町遺跡など弥生時代の重要な遺跡が数多く存在しています。近年の著しい都市化により失われるこれらの文化財を後世に伝えることは、本市の重要な責務です。

本書は、個人専用住宅建設に伴う有田遺跡群第18次・第248次発掘調査の成果を報告するものです。調査では弥生時代前期初頭の環濠などを検出しました。これらの成果は地域の歴史や、有田遺跡群における弥生時代集落の在り方を解明する資料となるものです。

本書が、市民の皆様の文化財保護に対するご理解の一助となるとともに、学術研究、文化財保護の普及啓発活動に活用していただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、土地所有者様、施工業者のエコシステム様には発掘調査から報告書作成に至るまでご理解とご協力を賜りました。心から感謝申し上げます。

平成27年3月25日

福岡市教育委員会

教育長 酒井 龍彦

## 凡 例

- (1) 本書は、福岡市教育委員会が昭和54年（1979）と平成25年（2013）度に福岡市早良区有田1丁目で、国庫補助事業として実施した有田遺跡群第18次・第248次調査報告書である。
- (2) 発掘調査は上記の主体により行われ、調査の担当は第18次が塩屋勝利・柳田純孝、第248次調査は久住猛雄・山崎龍雄が行った。
- (3) 遺構実測は、第18次調査は塩屋勝利・柳田純孝・花畠照子、第248次調査の遺構実測・遺物実測は山崎龍雄・久住猛雄が行った。出土遺物・記録類の収蔵整理は田中由紀が行った。
- (4) 本書に使用した図面の墨書きは山崎が行った。
- (5) 遺構の撮影は、第248次調査は山崎が行い、第248次調査出土遺物は本市埋蔵文化財センターの力武卓治が行った。
- (6) 本書に使用した方位は磁北であり、真北とは $6^{\circ}18'$ 西偏する。
- (7) 調査に係る記録類・出土遺物は埋蔵文化財センターで収蔵保管し、活用していく予定である。
- (8) 本書の執筆・編集は山崎が行った。

# 本文目次

I	遺跡の立地と歴史的環境	1
II	第18次調査	3
1	調査に至る経緯	3
2	調査の組織	3
3	調査の記録	3
III	第248次調査	5
1	調査に至る経緯	5
2	調査の組織	5
3	調査の記録	7

# 挿図目次

Fig. 1	調査区位置図（1/4,000）	1
Fig. 2	有田遺跡群と周辺の遺跡（1/50,000）	2
Fig. 3	第18次調査と第56次調査（1/300）	3
Fig. 4	各土層と遺構全体図（1/60・1/100）	4
Fig. 5	第248次調査区（1/300）	5
Fig. 6	遺構全体図（1/100）	6
Fig. 7	SK03と各壁土層（1/40・1/60）	7
Fig. 8	出土遺物（1/3）	8
Fig. 9	第248次調査周辺遺構配置図（1/500）	12

# 写真目次

## 第248次調査

Ph.1	調査区全景（西から）	Ph.2	調査区近景（西から）	Ph.3	調査区東側近景（西から）
Ph.4	調査区西側近景（西から）	Ph.5	SK03（北から）	Ph.6	SP43・44（南から）
Ph.7	SP43・44 土層（北から）	Ph.8	SP46（西から）	Ph.9	調査区南東壁土層（北から）
Ph.10	各遺構出土遺物				

## 調査基本情報

遺跡略号	調査番号	調査地番	申請面積	調査面積	調査原因	調査期間	調査担当
ART-18	7913	福岡市早良区有田1丁目32-1	248m <sup>2</sup>	50m <sup>2</sup>	個人専用住宅	1979.4.16 ～4.27	塩屋勝利 柳田純孝
遺跡略号	調査番号	調査地番	申請面積	調査面積	調査原因	調査期間	調査担当
ART-248	1305	福岡市早良区有田1丁目22-1の一部 同 有田1丁目22-1の一部	120.83m <sup>2</sup> 115.70m <sup>2</sup>	53m <sup>2</sup> 15m <sup>2</sup>	個人専用住宅	2013.5.13 ～5.31	山崎龍雄 久住猛雄

# I 遺跡の立地と歴史的環境

## 1. 立地

有田遺跡群は、福岡市西南部に広がる早良平野の北側中央部に位置する最大標高15mを測る独立台地上に所在する。行政的には福岡市早良区有田・小田部・南庄一帯にまたがる。この台地は洪積世に形成されたもので、台地西側を室見川、東側を金屑川が北流し、これらの河川の度重なる流路変更による浸食や、台地北側を中心とする小谷の開析によって、八手状に北側に広がる複雑な地形を形成している。

## 2. 歴史的環境 (Fig.2)

有田遺跡群は後期旧石器時代から近世に至る複合遺跡である。旧石器時代遺跡としては周辺では西区の羽根戸遺跡、吉武遺跡群などがある。縄文時代は第5次・第116次などで中期から後期にかけての貯蔵穴群が確認されている。周辺の縄文時代遺跡としては砂丘下層で縄文時代前期曾煙式土器などが検出された西新町遺跡、南側内陸部には四箇遺跡他、多数の遺跡がある。弥生時代には台地中央部で前期初頭の環濠が確認されている。中期になると台地に広く集落が広がる。甕棺墓地も數ヵ所確認されており、中から青銅利器や鏡が出土している。室見川西側の吉武遺跡群、野方遺跡、東側の飯倉遺跡、北側の藤崎・西新町遺跡などと共に、早良平野に於ける拠点集落の一つとなる。古墳時代にかけても集落は台地上に広く分布し、北側小田部・南庄地区では筑紫殿塚、松浦殿塚などの古墳が築かれる。早良地区では前期には海岸砂丘部の藤崎地区で三角縁神獣鏡を副葬する方形周溝墓が検出されており、前方後円墳は内陸部や山麓・丘陵部で見つかっているが数は少ない。古墳後期には周辺の山麓部に群集墳が多く造られる。古代は有田地区台地部に早良郡衙と思われる大型建物群が検出されている。中世前半は目立った遺構は確認されていないが、南側の田村遺跡・次郎丸遺跡では中世村落が確認されている。戦国期には有田地区には安楽平城主小田部氏の里城と伝わる小田部城がある。

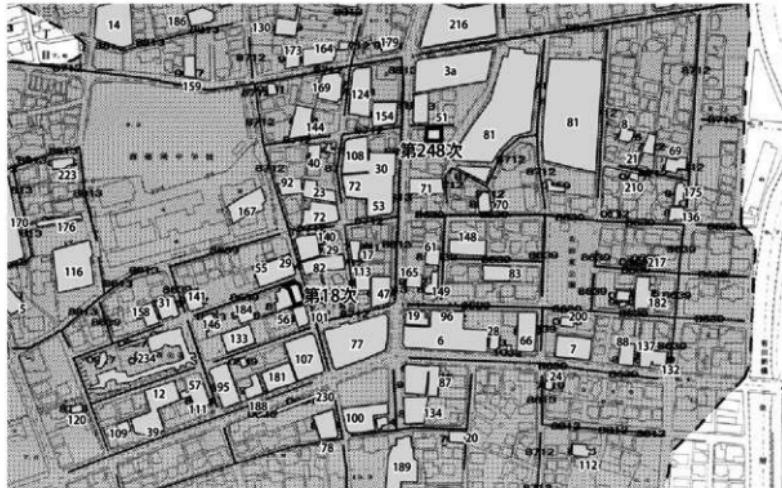




Fig. 2 有田遺跡群と周辺の遺跡 (1/50,000)

1. 有田遺跡群
2. 原遺跡
3. 次郎丸高石遺跡
4. 免遺跡
5. 藤崎遺跡
6. 西新町遺跡
7. 田村遺跡
8. 四箇遺跡
9. 重留遺跡
10. 四箇大町遺跡
11. 東入部遺跡
12. 羽根戸原C遺跡
13. 都地遺跡
14. 野芥遺跡
15. 吉武遺跡群
16. 大北遺跡
17. 都地南遺跡
18. 戸切遺跡
19. 姪浜遺跡
20. 野方久保遺跡

## II 第18次調査

### 1. 調査に至る経緯

早良区有田・小田部・南庄地区に所在する有田遺跡群は、市内でも有数の重要遺跡として、昭和52年度から国庫補助金を受けて、開発により破壊を避けられない個人専用住宅や小規模開発に対しても発掘調査を行い、記録保存を図って来た。早良区有田1丁目32-1に於ける個人住宅建設の事前審査申請を受けて、事前審査担当が試掘調査を行い、遺構が検出された。調査は基礎の深さが遺構面より浅く、現状保存されるということとなったため、建物部分の遺構確認調査を目的に試掘トレント部分を拡張して調査を実施した。調査は昭和54年（1979）4月16日～4月27日まで行った。申請面積は248m<sup>2</sup>、調査面積は50m<sup>2</sup>である。30年以上前の緊急的な調査で、図面から得られる情報は不十分であるため、分かる範囲で報告する。

### 2. 調査の組織

#### 【昭和54年度調査】

調査主体 福岡市教育委員会  
調査担当 文化部文化課長 井上剛紀  
同 課埋蔵文化財調査第2係長 柳田純孝  
同 課係員（事前審査担当） 塩屋勝利

#### 【平成26年度整理】

整理総括 文化財部埋蔵文化財調査課課長 常松幹雄  
同課調査第1係長 吉武 学  
整理庶務 埋蔵文化財審査課管理係 横田 忍  
整理担当 埋蔵文化財調査課文化財主事 山崎龍雄

### 3. 調査の記録 (Fig.1・3・4)

調査区は有田遺跡群の中央部に位置する。調査区西側は第56次調査、北側は第29・第55次調査、南側は第101次調査などがあり、弥生時代前期の環濠、古代の官衙建物群が検出されている。

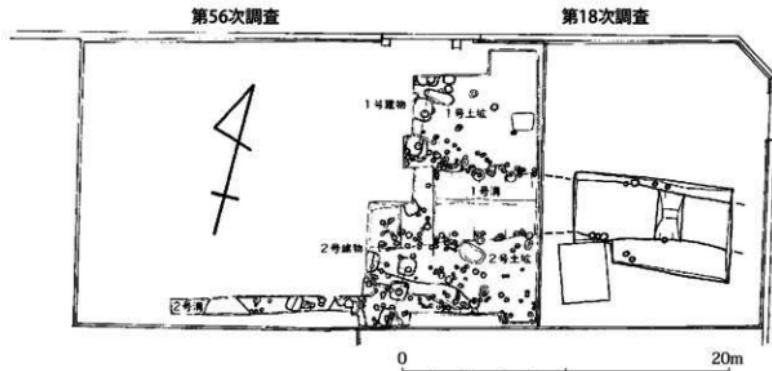


Fig. 3 第18次調査と第56次調査 (1/300)

調査区は試掘トレンチを基に設定した。遺構面は約30cm厚の埋土・旧耕作土下で、検出遺構は溝1条・ピット群。現状保存前提の調査で完掘していないが、溝はトレンチを設定して深さ・時期の確認を行った。溝内から遺物が出土しているが、所在不明で今回報告出来ない。また記録写真類も不明で、今回は残された図面を基に報告する。溝は有田台地高所部を巡る弥生時代前期の環濠の一部で、西側第56次調査に続く東西方向に延びる溝の一部。確認規模は約10m、幅3m前後を測り、溝断面は菱研堀に近い逆台形で深さ約1.8mを測る。溝の時期は有田・小田部既報告によれば溝内から夜白式土器を含む弥生時代前期の遺物が出土しているとされているが、詳細は不明。

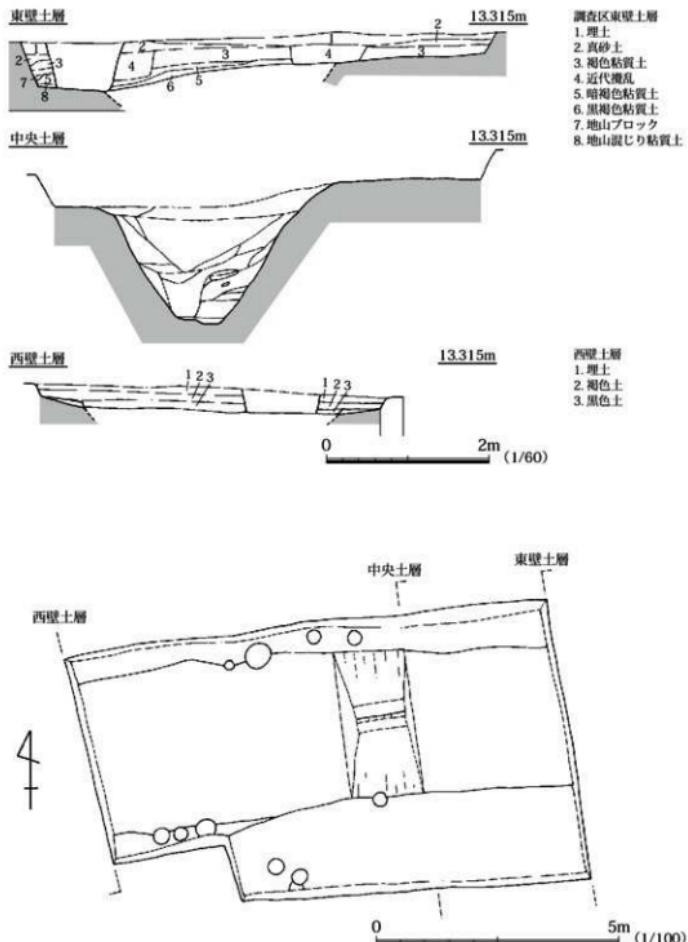


Fig. 4 各土層と遺構全体図 (1/60・1/100)

### III 第248次調査

#### 1. 調査に至る経緯

早良区有田・小田部・南庄地区に所在する有田遺跡群は、市内でも有数の重要遺跡として、昭和52年度から国庫補助金を受けて、開発により破壊を避けられない個人専用住宅や小規模開発に対しても発掘調査を行い、記録保存を図って来た。今回の調査は平成25年4月12日に、早良区有田1丁22-1の一部に個人住宅建設の申請（事前審査番号25-2-55）を受けたもので、周辺の調査例から遺跡が存在することが予想されたので、事前の試掘調査を実施した。試掘調査の結果、遺構が確認されたので、建設で遺構が壊される範囲について、調査を実施することとなった。申請面積は120.83m<sup>2</sup>、調査面積は53m<sup>2</sup>である。東隣接地（有田1丁目22-1の一部、事前審査番号25-2-54）の基礎部分の掘削立会い調査も同時並行で行い、遺構を検出したので、その部分についても調査を実施した。その部分は15m<sup>2</sup>であり、合わせて68m<sup>2</sup>の調査面積となる。発掘調査は平成25年度の国庫補助事業として平成25年（2013）5月13日～5月31日まで行った。整理・報告書作成は平成26年度に行った。

#### 2. 調査の組織

##### 【平成25年度調査】

調査主体	福岡市教育委員会	
調査総括	文化財部埋蔵文化財調査課長	宮井善朗
	同課第1係長	常松幹雄
整理庶務	埋蔵文化財審査課管理係	横田 忍
調査担当	埋蔵文化財課文化財主事	山崎龍雄 久住猛雄

##### 【平成26年度整理】

整理総括	埋蔵文化財調査課長	常松幹雄
	同課調査第1係長	吉武 学
整理庶務	埋蔵文化財審査課管理係	横田 忍
整理担当	埋蔵文化財調査課文化財主事	山崎龍雄 久住猛雄



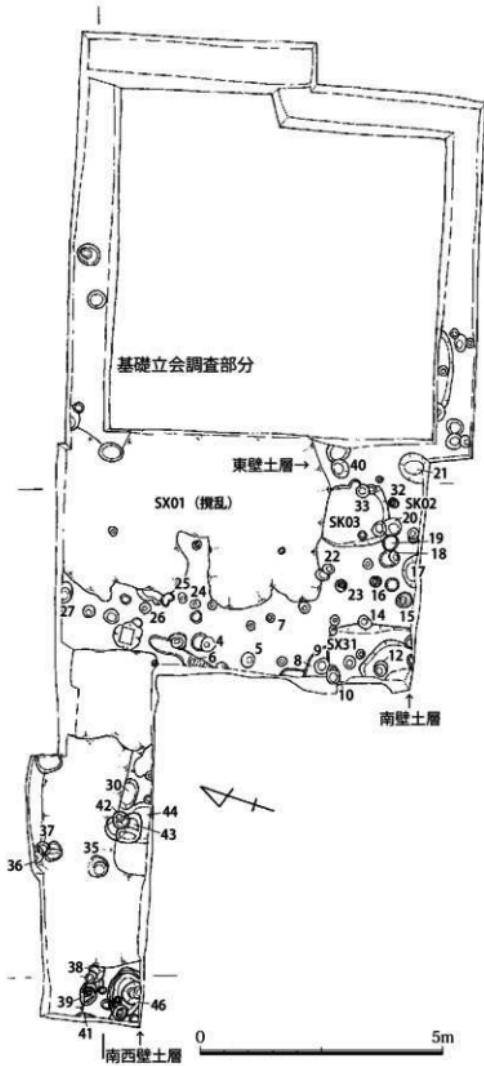


Fig. 6 遺構全体図 (1/100)

### 3. 調査の記録

#### 1) 調査の概要 (Fig.1・5・6, Ph.1 ~ 3)

調査区は有田遺跡群の中央部東側、東の浅い谷を臨む斜面上に位置する。標高は約12mを測る。調査区周辺の既調査地点は西側に第154次、東側に第81次、北側に第3a次・第51次、南側に第71次調査がある。調査は建物と駐車場部分について実施した。以前歯科医院の建物があったので、基礎などによる擾乱がひどく、遺構面はかなり損なわれていたが、深さ0.6mで検出した。遺構面が残る部分では遺構を検出した。遺構面までの土層状況は上から真砂土、暗灰黄色土、暗褐色土である。検出遺構は土坑1基、柱穴・ピットである。

#### 2) 遺構と遺物

##### ① 土坑 (SK)

**SK02 (Fig.8, Ph.10)** SK03上面で検出した浅い土坑状の落込み。1は中世の土師器皿1/4片。復元口径10.8cmを測る。器壁は摩滅し調整は不明。色調は橙色を呈し、胎土は精良、焼成は良好。

**SK03 (Fig.7・8, Ph.5・10)** 調査区南東隅で検出した略方形の土坑。北側は擾乱にかかる。規模は長軸1.40m、短軸1.22m、深さ0.2m。埋土は暗褐色粘質土。2は須恵器胸部の破片。外面木目直交格子目叩き、内面同心円状の当て具痕がある。色調は褐灰色、胎土精良、焼成良好。

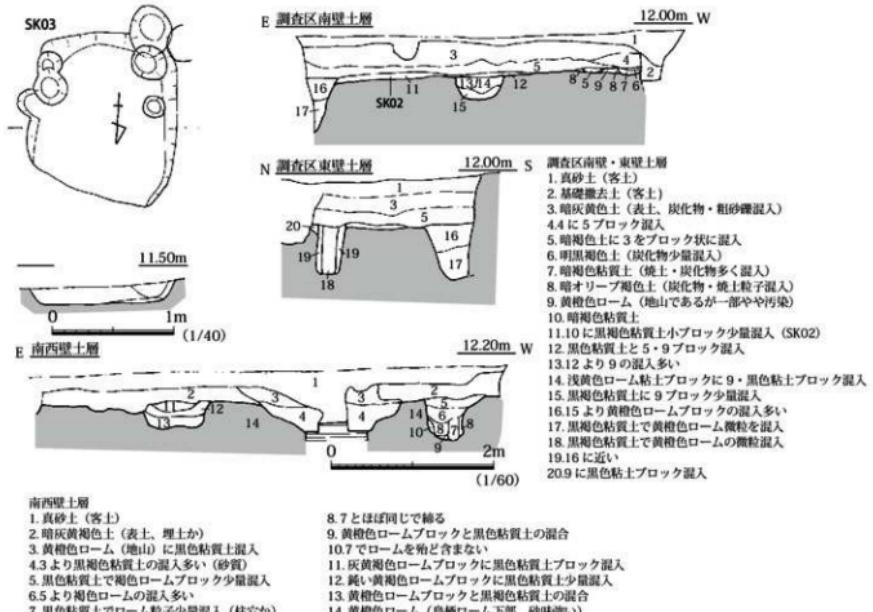


Fig. 7 SK03と各壁土層 (1/40・1/60)

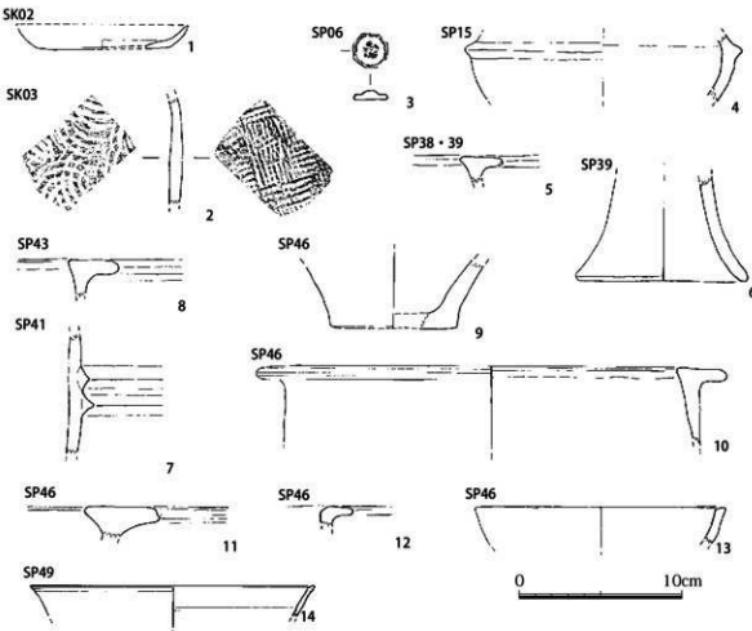


Fig. 8 出土遺物 (1/3)

②柱穴・ピット出土遺物 (Fig.8, Ph.6 ~ 8 + 10)

3はSP06出土。江戸時代の遊技具泥面子である。径2.1cm。色調は浅黄色で、焼成良好。4はSP15出土。弥生土器壺脣部小片。三角突帯が巡る。摩滅がひどく調整不明。色調は橙色、胎土に1~2mm石英・長石粒子を含む。焼成は良好。5はSP38・39上面で出土。弥生土器。逆L字の口縁部細片。器壁は摩滅し調整は不明。色調は灰褐色、胎土に1~2mm石英・長石粒子混入。6はSP39上層出土。弥生土器の器台底部1/12片。小片で底径は10cm強か。器壁は摩滅し調整不明。色調は暗オリーブ褐色。胎土には径3mm程の石英・長石を多く含む。7はSP41出土。弥生土器。二条の三角突帯が付く脣部細片。器壁は摩滅がひどく調整不明。色調は橙色、胎土は径3mm程の石英・長石・雲母粒子を多く混入。8はSP43出土。弥生土器壺口縁部細片。器壁は荒れ調整不明。色調は明赤褐色。胎土は径2mm前後の石英・長石粒子多く混入。9~13はSP46出土でいずれも弥生土器。9は壺底部1/4片。器壁は摩滅し調整は不明。色調は暗オリーブ褐色、胎土は1~2mm石英・長石粒子多く混入。10は下層出土。逆L字口縁の壺1/4片。復元口径28.8cm。器壁は摩滅し調整不明。色調は暗褐色を呈し、胎土に金雲母や微砂粒多く混入。11は下層出土。弥生土器鉗先状の口縁部片。器壁は摩滅し調整不明。色調は鈍い黄橙色、胎土は微砂粒混入。12は下層出土。丹塗り小壺の口縁細片。器壁は摩滅し調整は不明だが、赤色顔料が残る。色調は橙色、胎土は精良。13は下層出土。丹塗り鉢1/10片。復元口径15.2cm。口縁端部はやや窪む。器壁は摩滅し調整は不明だが、内外面赤色顔料が残る。色調は橙色から明赤褐色、胎土は白色微砂粒を含む。14はSP49出土。白磁碗V類口縁部1/12片。復元口径17.2cm。内面へら切り沈線が1条巡る。内外面薄目の乳白色の透明釉がかかり灰オリーブ色を呈す。外面細かい貫入が入る。胎土は精良、焼成は良好。



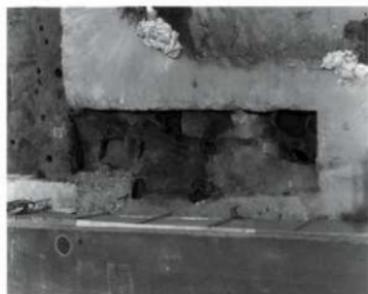
Ph.1 調査区全景（西から）



Ph.2 調査区近景（西から）



Ph.3 調査区東側近景（西から）



Ph.4 調査区西側近景（西から）



Ph.5 SK03（北から）



Ph.6 SP43・44（南から）



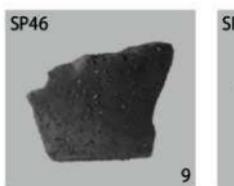
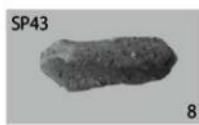
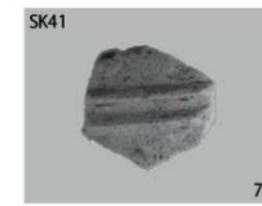
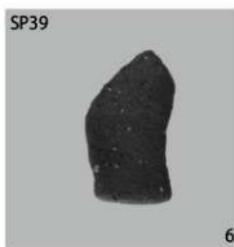
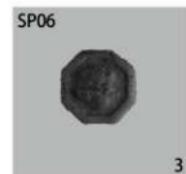
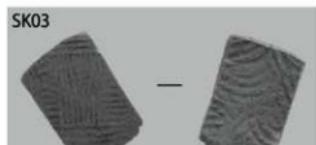
Ph.7 SP43・44 土層（北から）



Ph.8 SP46 (西から)



Ph.9 調査区南東壁土層（北から）



Ph.10 各遺構出土遺物（縮尺不統一）



Fig. 9 第248次調査周辺遺構配置図 (1/500)

## 報 告 書 抄 錄

## 有田・小田部55

—有田遺跡群第18次・第248次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1249集

2015年（平成27年）3月25日

発行 福岡市教育委員会

〒810-8621 福岡市中央区天神1丁目8番1号

印刷 エース印刷株式会社

〒810-0052 福岡市中央区大濠1-6-9

## 有田・小田部55

—有田遺跡群第18次・第248次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1249集